

「地元のプロスポーツがあるよろこび」

2004年9月27日、Yahoo! BB スタジアム。

大阪生まれ・大阪育ちの私が少年時代から応援し続けてきた大阪近鉄バファローズは、この日が史上最後の一軍公式戦となった。

帰りの電車の中、泣き崩れるバファローズファンの女性の姿を見ながら、私の心のなかにはさまざまな想いが渦巻いた。

怒り、悲しみ、諦め、後悔、憎しみ…。

そしてこう決意した。

「こんな想いをするのなら、もう特定のプロスポーツチームのファンにはなるまい。」

それから5年間。

就職してから住んでいる愛媛に愛媛FCと愛媛マンダリンパイレーツという二つのプロスポーツチームがあることは知っていたが、観戦に行こうと思うことはなかった。

そんなときに一冊の本と出会った。

『サッカーがやってきた ザスパ草津という実験』（辻谷秋人・著）。

ザスパ草津の選手が草津温泉の旅館で働きながらJリーグ入りを目指している姿は過去にニュースで見たことがあり、興味があったので手にとった。

そこに描かれていたのはザスパを支える草津の町の人々の姿だった。

プロ野球とは違う、クラブチームとサポーターとの関わり方に心を動かされた。

この本の最終章には愛媛FCのことが書かれていた。

そこではじめて愛媛FCの試合を観に行ってみようという気持ちになった。

はじめてのニンジニアスタジアム。

ローカル色豊かな出店の数々。ボランティアの皆さんによる温かいおもてなし。

老若男女、いろんな人々がオレンジ色を身につけて選手たちに声援を送る姿。

一緒に声援を送るうちに、かつてバファローズを無心に応援していた日々の記憶が蘇った。

「よし、愛媛FCを応援してみよう！」

地元のプロスポーツの勝敗に一喜一憂できる日々。

これは地元プロスポーツが存在しなければ当然ありえないものだ。

愛媛FCには地元のプロスポーツを応援するよろこびを思い出させてもらった。

今度は愛媛FCを全力で支えていかなければならないと思っている。

あの日のバファローズファンの悲しみを二度と繰り返さないために。

愛媛県松山市 男性 35歳 愛媛FC 観戦歴2年目